

さんざし

山 檀 子

東京栄養士薬膳研究会会報 平成26年11月号

1. 巻頭言
2. 活動報告 - 特別講演会報告-
3. 国際薬膳師授与式に出席して
4. 薬膳を学ぶ
5. 薬膳を学ぶ・薬膳料理紹介
6. 薬膳料理紹介・今後の活動予定
7. 薬膳とわたし
8. クラス紹介・会員伝言板



VOL. 5 No.2

会員参加型の会運営を目指して

東京栄養士薬膳研究会 代表 海老原 英子

9月に開催された特別講演会では担当者の方々にたいへんお世話になりました。また、会員の方々には助成金を有難うございました。お陰様で大きな行事を無事に終わることができました。みな様に心から厚くお礼を申し上げます。今年の講演会の2つのテーマは、「ロコモティブシンドローム対策と予防」を日本整形外科学会ロコモティブチャレンジ推進協議会委員長 医学博士、泉田良一先生に、「東洋医学で食養生」は上海中医薬大学付属日本校客員教授 中醫師 高橋楊子先生に講演をお願いしました。特に今回のロコモティブシンドロームについては、タイムリーな企画で非常にたくさんの方々からお申し込みをいただき最終的にはお断りすることになってしまいました。年々リピーターの方も増え、「毎年違った内容で健康のためになる講演会を楽しみにしています。」とか「初回から皆勤です。いつも有難う」と言葉添えて申し込む方もいらっしゃって主催者としてこんなにうれしいことはありません。今回で8回目「継続は力なり」の言葉通り、都民のための健康づくり運動が実を結びつつあることを実感しています。

講演会が終わりますと、また次年度に向けて新しい研修会や事業の企画が始まりますが、会員のみな様からもこの先生からこのような内容の講義が聞きたいとか、会運営に対してもよいアイデアありましたら積極的にクラス役員にお伝えください。役員会で、会員の貴重な意見や要望を重視しながら新年度の企画を作成したと考えています。東京栄養士薬膳研究会は代表や役員のもではありません。全会員参加型の会運営を目指していますので、各研修会をはじめ、それぞれの行事にも会の趣旨を理解いただきぜひご参加をお願いします。

2003年発足当時は、池袋教室と町田教室の2か所で合わせて約40名から薬膳の勉強会が始まりました。その後も中医薬膳に深い関心を持ち、日常の栄養士業務に活用したい、市民の方々の健康づくりに役立たせたいと真摯に学び続けた会員の方々の熱意によって支えられ

本会は発展を続けて現在に至りました。その期間の本会の活動は、どのような環境におかれてもそれに煩わされることなく管理栄養士・栄養士が中医薬膳学を学ぶことの意義を中心に据えて強い使命感をもって一步一步より質の高い活動をめざして前進して参りました。

これからは、本会の目的である中西医結合による健康・栄養指導ができる管理栄養士・栄養士の養成と研究の10年の成果が多方面に実現することを期待しています。今後は研究コースの充実を図り、薬膳料理研究教室、症例研究教室、講師養成教室など研究の場で研鑽をつみ、社会の様々なニーズに対応できるより質の高い活動をめざしたいと考えています。

自然からのメッセージ

茨城の田舎に転居して半年が過ぎました。農作物の成長と収穫には目を見張るものがあります。特に稲作は5月立夏のころに水田に苗を植えつけ、6,7月の梅雨時期は株を増やし成長し一面を深緑に変え、8月立秋のころには穂を出し花をつけ、9月上旬白露のころには田んぼは黄金色に染まり、温燥の時期に収穫を迎えます。また、8月早朝から泣き続けた蝉の声も泣き止み、その時を待っていたかのように9月に入ると草薺からスズムシやコオロギなど種々の虫の鳴き声がまるでオーケストラのように美しく響きあって秋の夜を楽しませてくれます。陰陽の盛衰、気象などの自然界の変化は小さな草花の息吹や虫や鳥の鳴き声、吹く風のひとつまで大きな影響を与えています。私はその日々移り変わる美しい自然の営みに感謝し、大きな感動を覚えます。田舎生活は中医学を学ぶ者にとっては正に整体観念の思想を日々の繰り返しの生活の中から系統的に勉強する機会を与えてくれます。

「平成26年度 会員向け特別講演会お知らせ」

日 時：平成27年1月12日(月・祝) 13時30分～16時30分

プログラム：「中医学から見た、ロコモティブシンドローム対策について」

辰巳 洋先生 …本草薬膳学院長・国際薬膳師会会長

定 員：100名

参加費：1500円

場 所：日本女子大学桜楓会館4Fホール

文京区目白台2-8-1